

令和元年度 市町村職員国内先進事例研修 ― 研修先の概要 (1)

1 研修先

和歌山県有田川町（ありだがわちょう）

(1) 人 口

26,482 人 10,602 世帯 （令和元年 6 月 1 日現在）

(2) 町の概要

平成 18 年 1 月 1 日、旧吉備町・金屋町・清水町が合併し、誕生した有田川町は、和歌山県のほぼ中央に位置し、東西に細長い形状を成している。高野山に源を発する有田川が町の中央部を西に蛇行しながら流れており、豊かな自然と産業を生み出している。

歴史的な地域の発展は、空海が高野山を開設した時代に高野有田街道が開かれたことをはじめまりとして、有田川に沿って一体的な生活圏を形成してきている。

気候は、瀬戸内気候区と南海気候区に属し、平野部と山間部においては、若干気象状況に差異があるが、比較的温暖な気候に恵まれている。

産業構造を産業大分類別就業者数からみると、第 1 次産業の占める割合が全体の 3 割以上を占め、農林業の果たす役割が極めて高い地域である。また、第 3 次産業の占める割合は県計を大きく下回っている。

2 研修テーマ

環境と経済を両立したエコなまちづくり「有田川エコプロジェクト」の取組について

3 全体概要

(1) 目的・取組内容

「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「プラスチック」「ペットボトル」「空き缶」「空き瓶」、新聞紙等の「古紙」、封筒等の「雑紙」の 8 つに分類と自治会のごみステーション管理により、高品質の資源ごみが排出され、その結果、資源ごみ収集運搬処理業務がマイナス入札の状態となった。

これまで業者に年間約 3,200 万円を支払っていたものが、平成 20 年度から業者から逆にお金をもらい、年間 200 万円以上（H29～H31：210 万円）の収入になっている。この収入は、有効活用するために基金に積み立てしている。

(2) 特徴的な取組・成果

再生可能エネルギーの導入促進では、太陽光発電設備の設置はもちろん、県営多目的ダムの維持放流水を町が利用するという全国初のスキームで、資源ゴミから得た基金も使い町営小水力発電所を建設し、年間約 5,000 万円の収入（平成 28、29 年度実績）を得ている。

これらの収入は、住民向けの太陽光発電・太陽熱温水器設置補助や生ごみを堆肥化するコンポスト容器の無償貸与制度の原資とし、循環型社会を目指しながらその仕組み自体も循環型としている。

さらには、売電に頼らない防災要素も兼ね備えた、オフグリッド型の発電設備の設置や住民のエコな暮らし定着を目指すイベント「有田川エコフェスタ」を開催するなど、ソフト・ハード事業両面からエコなまちづくりの深化を目指している。この取組が評価され、まち全体も次世代エネルギーパーク（経産省資源エネルギー庁）として認定されるなど、結実期を迎えている。

令和元年度 市町村職員国内先進事例研修 ― 研修先の概要 (2)

1 研修先

奈良県下市町（しもいちちょう）

(1) 人 口

5,360 人 2,448 世帯 （令和元年6月 1 日現在）

(2) 町の概要

下市町は、奈良県の南半分を占める広大な吉野郡の北西に位置し、北は大淀町、東は吉野町、西は五條市、南は黒滝村に接し、奥吉野地方の入口として古くから政治・経済・文化に重要な役割を果たしてきた。

地形は南北に広く、山岳地帯と丘陵地帯からなり、北部を流れる吉野川の流域に広がった平坦な土地と、秋野川、丹生川を挟む山間地域で、全体の 78.6%が山林である。

気候は、北部は奈良盆地と同様に夏は暑く、冬は寒い気温差の大きい内陸性気候地帯にあたり、山岳地帯は、夏は比較的涼しく、冬の寒さはかなり厳しい吉野地方特有の気候である。

吉野山地と大和平野を結ぶ交通の要衝として交易が盛んになったことから市場町として栄え、また良質の吉野杉、桧を素材とした地場産業が発展してきた。

恵まれた自然環境を生かし、さまざまな文化を育みながら、さらには吉野地域の中心として役割を担っていくために、「ふりかえれば歴史、みつめればロマンのまち下市」をキャッチフレーズに、にぎわいとやすらぎ、ふれあいが生まれる町づくりを目指している。

2 研修テーマ

高齢者の営農を支える「らくらく農法プロジェクト」の取組について

3 全体概要

(1) 目的・取組内容

下市町は、町の約 8 割が森林で、全体的に急峻な地形が多く柿を中心とする果樹農業と、林業、木工品製造が基幹産業であるが、長期の価格低迷のほか、自然災害等での生産意欲の減退や、樹園地や森林の管理放棄、荒廃化が進んでいる。特に柘原地区は、急激な高齢化と後継者難による地域社会の崩壊に対して強い危機感を募らせていた。

平成 23 年、これらの課題に対し、奈良女子大学と奈良県農業総合センター、三晃精機㈱が共同研究事業として、「高齢営農者を支える『らくらく農法』プロジェクト」を立ち上げた。

(2) 特徴的な取組・成果

ア 「らくらくプロジェクト」

高齢で農業を諦めようとしている営農者が、さらに 10 年延長して、楽に楽しく、現役を続けられるようにすることを目標としている。

イ 「らくらくプロジェクト」の内容

地区の地勢や土地利用状況、営農の継続性などを調査した「(1)集落点検」や、高齢農業従事者の身体の状態と、農作業での疲労を軽減・解消するための「(2)らくらく体操（PPK）」の開発のほか、急峻な地形でも荷物を運んで確実に作動し、かつ高齢者でも簡単に操作ができる電動運搬車を三晃精機㈱と国立奈良工業高等専門学校が試作した「(3)電動運搬車らくらく号」の試乗、「重くて大変な果実生産から軽くて楽な柿葉生産へ」シフトする『(4)らくらく栽培』技術を奈良県農業総合センターが開発し、販売ルートを確立した。

若年者は柿の実の栽培を行い、年齢や地形等により柿の実から葉づくりにシフトし、農村を守り、地域コミュニティにつなげ、日帰りのできる近隣に他出している人が定年を迎えたとき、帰りたくなる元気な地域づくりを目出している。

令和元年度 市町村職員国内先進事例研修 ― 研修先の概要 (3)

1 研修先

奈良県大和高田市（やまとたかだし）

(1) 人 口

64,898 人 30,007 世帯 （令和元年6月1日現在）

(2) 町の概要

大和高田市は、奈良県の北西、大和盆地の南西に位置しており、全市域にわたりほぼ平坦な地形である。

中将姫伝説の当麻寺、世界遺産の法隆寺、古代ロマンあふれる明日香村などへは 30 分程度の至便な立地条件で、大阪都市圏へは鉄道で約 30 分圏内にある。

1948 年（昭和 23 年）1 月 1 日、奈良市に次いで、県下 2 番目の市として市制を施行し、昨年は市制施行 70 周年を迎えた。

2 研修テーマ

高齢者の健康増進と居場所づくりをテーマとした商店街の賑わい再生の取組について

3 全体概要

(1) 目的・取組内容

平成 22 年に市内大型店の撤退により通行量が減少し、空き店舗が増加した高田市駅前の片塩商店街において、「お年寄りに優しく、元気になる商店街」を目指し、空き店舗へのテナント誘致やイベントの実施を決めた。ハード事業を担う片塩まちづくり(株)とソフト事業を担う片塩振興協議会が協働により商店街の賑わいを再生した。

平成 24 年に設立した片塩まちづくり(株)は、出資者がすべて商店街の土地所有者のため、店舗オーナーと出店希望者の家賃交渉を手助けし、空き店舗解消（20以上の空き店舗が半減）に貢献した。

その一環として、高齢者の居場所づくりのために空き店舗を活用し、高齢者に健康維持や交流の場を提供する施設「片塩わかがえりーな」を平成 26 年4月に開設し、スポーツ教室や文化教室等、商店街にコミュニティの場を設けたことで賑わいが再生された。

(2) 特徴的な取組・成果

高齢者が安心して出かけられる居場所、お互いに声をかけ合える関係をつくるきっかけになるよう、市が中心となって平成 23 年度から取組を開始した。

居場所づくりの必要性については、啓発・周知から始め、公共施設内や地域でつくる居場所 マップの作成、人材発掘・養成、先進地の視察からの試験的な居場所づくりの実行を通じ、高齢者の外出機会の増大に寄与したほか、公民館等の改修（手すり設置・段差解消等）、ベンチ設置、防犯カメラ増設、街路灯LED化等を行うことで、高齢者の居場所への外出を促し、賑わいの創出につなげた。

また、市は平成 28 年4月、地域の居場所づくり事業を推進するため、コミュニティバスの拠点となる市民交流センターを建設し、いろいろな世代の人、子どもから高齢者、障がいをもつ人など多くの人がつどい、にぎわいを創出する施設を整備した。

※ 片塩商店街の空き店舗数

以前（21）、平成 24 年度（13）、平成 28 年度（8）